

# 浜松市議会 市民クラブ

## 海外視察報告書

1. 期 間     2024年12月22日(日)～12月28日(土) 7日間
2. 行 先     インド共和国(アーメダバード、デリー、ハイデラバード)
3. 出張者     岩田邦泰 1名

上記内容で視察を行って参りましたので、ご報告申し上げます。



アーメダバード市のランドマーク アタルブリッジにて

**浜松市議会 市民クラブ  
「インド共和国 視察」行程表**

| No | 期日    | 曜日 | 時間    | 内容                                          | 朝食 | 昼食        | 夕食  | 備考         |
|----|-------|----|-------|---------------------------------------------|----|-----------|-----|------------|
| 0  | 12/21 | 土  | 13:00 | 大平大橋バス停 [遠州鉄道] 9-22: 大平台1丁目～浜松(浜松駅行)        |    |           |     | 410円       |
|    |       |    | 13:46 | 浜松駅 東海道本線(東海)(豊橋行)                          |    |           |     | 880円       |
|    |       |    | 14:32 | 豊橋駅 名鉄快速特急(一部特別車)(新鶴沼行)                     |    |           |     | 1840円+450円 |
|    |       |    | 15:27 | 神宮前駅 名鉄ミュースカイ(全車特別車)(中部国際空港行)               |    |           |     |            |
|    |       |    | 15:48 | 中部国際空港 【現地ホテル: チュウブスクエア 前泊】                 |    |           |     | 自費         |
| 1  | 12/22 | 日  | 10:20 | 中部国際空港発【SQ871便(シンガポール航空)】                   |    |           |     |            |
|    |       |    | 16:15 | シンガポール・チャンギ国際空港着(シンガポール)                    |    | 機内        | 機内  |            |
|    |       |    | 18:40 | シンガポール・チャンギ国際空港発【SQ504便(シンガポール航空)】          |    |           |     |            |
|    |       |    | 21:50 | インド・アーメダバード空港着【専用車】(インド・アーメダバード)            |    |           |     |            |
|    |       |    | 22:30 | ホテル着 【現地ホテル: ハイアットリージェンシーアーメダバード 泊】         |    |           |     |            |
| 2  | 12/23 | 月  | 7:30  | ホテル発【専用車】                                   |    |           |     |            |
|    |       |    | 10:00 | ① スズキ・モーター・グジャラート社訪問                        |    | 自己負担(請求書) | ご招待 |            |
|    |       |    |       | SWG社員食堂(昼食)                                 |    |           |     |            |
|    |       |    | 13:30 | ② マンダル工業団地視察                                |    |           |     |            |
|    |       |    | 17:00 | ③ 国際金融技術都市(GIFT CITY)視察                     |    |           |     |            |
| 3  | 12/24 | 火  |       | ネクスト・バーラト・ベンチャーズ開所イベント(夕食会)                 |    |           |     |            |
|    |       |    | 20:45 | ホテル着 【現地ホテル: ハイアットリージェンシーアーメダバード 泊】         |    |           |     |            |
|    |       |    | 8:30  | ホテル発【専用車】                                   |    |           |     |            |
|    |       |    | 9:00  | ④ アーメダバード市役所訪問(アーメダバード市長表敬)                 |    | 自己負担(請求書) | ご招待 |            |
|    |       |    | 11:00 | ⑤ グジャラート州政府訪問 及びグジャラート州首相主催昼食会              |    |           |     |            |
| 4  | 12/25 | 水  | 15:00 | ⑥ アーメダバード経営者協会(ジャパンセンター)訪問                  |    |           |     |            |
|    |       |    | 17:30 | ホテル着 【現地ホテル: ハイアットリージェンシーアーメダバード 泊】         |    |           |     |            |
|    |       |    | 18:00 | ⑦ 現地関係者とのネットワーク構築会(夕食会) ※宿泊先ホテルにて           |    |           |     |            |
|    |       |    | 8:30  | ホテル発【専用車】                                   |    |           |     |            |
|    |       |    | 7:00  | アーメダバード空港着                                  |    | 自己負担(請求書) | 機内食 |            |
| 5  | 12/26 | 木  | 8:40  | アーメダバード空港発【AI2946便(エア・インディア)】               |    |           |     |            |
|    |       |    | 10:30 | インディガラ・ガンディー国際空港着(デリー)【専用車】                 |    |           |     |            |
|    |       |    | 11:30 | ⑧ 全日本空輸輪デリー支店MTG(昼食含む)                      |    |           |     |            |
|    |       |    | 17:35 | インディガラ・ガンディー国際空港発【AI2879便(エア・インディア)】        |    |           |     |            |
|    |       |    | 18:50 | ハイデラバード空港(ラジーヴ・ガンディー国際)着【専用車】               |    |           |     |            |
| 6  | 12/27 | 金  | 20:30 | ホテル着 【現地ホテル: ル・メリディアン・ハイデラバード 泊】            |    |           |     |            |
|    |       |    | 8:00  | ホテル発【専用車】                                   |    |           |     |            |
|    |       |    | 9:00  | ハイデラバード空港(ラジーヴ・ガンディー国際)着                    |    | 自己負担(請求書) | 機内食 |            |
|    |       |    | 11:15 | ハイデラバード空港(ラジーヴ・ガンディー国際)発【SQ519便(シンガポール航空)】  |    |           |     |            |
|    |       |    | 18:30 | シンガポール・チャンギ国際空港着(シンガポール) 【空港泊】              |    |           |     |            |
| 7  | 12/28 | 土  | 1:20  | シンガポール・チャンギ国際空港発(シンガポール)発【SQ872便(シンガポール航空)】 |    |           |     |            |
|    |       |    | 8:30  | 中部国際空港着 解散                                  |    |           |     |            |
|    |       |    | 9:37  | 中部国際空港 名鉄ミュースカイ(全車特別車)(名鉄名古屋行)              |    |           |     | 1840円+450円 |
|    |       |    | 10:10 | 神宮前駅 名鉄特急(一部特別車)(豊橋行)                       |    |           |     | 880円       |
|    |       |    | 11:05 | 豊橋駅 東海道本線(東海)(浜松行)                          |    |           |     | 410円       |
|    |       |    | 12:11 | 浜松駅バス停 [遠州鉄道] 9-22: 浜松～大平大橋(大平台1丁目行)        |    |           |     |            |

【現地ホテル】

■ アーメダバード 12月22日・23日・24日

ホテル名: Hyatt Regency Ahmedabad

住所: 17/A, Ashram Road Ahmedabad, 380014 INDIA

電話: +91-079-40171234

■ ハイデラバード 12月25日・26日

ホテル名: Le Meridien New Hyderabad

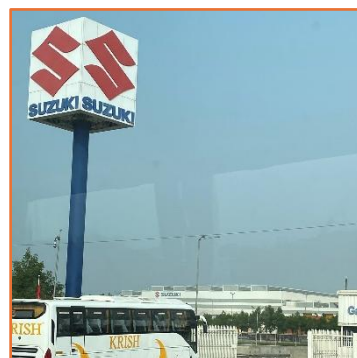
住所: Plot No 132 Miyapur Road, Gachibowli Hyderabad 500032, INDIA

電話: +91-040-42885550

## ① 12/23 スズキモーターグジャラート(SMG)

### 調査目的

○インド人従業員の勤務状況や、ローカル企業等との取引を通し、インド人の特性やインド人との交流の可能性を探る。  
また、インドの風習、衛生事情、医療事業などの生活実態を把握するべく訪問。



### 概要

○スズキ株式会社における四輪生産会社。2014年にスズキ株式会社の子会社として設立。2023年11月マルチスズキ社の100%子会社化。  
○2023年12月に累計生産台数300万台を達成。インド市場向けモデルの生産だけでなく、グローバル生産拠点として輸出モデルも生産し、中南米やアフリカ等に輸出。  
○2024年1月、将来的な電気自動車の増産を視野に第4生産ラインの設置を発表。2026年稼働見込。

### 調査内容・所感

その存在が今回グジャラート州と静岡県、アーメダバード市と浜松市を結びつけるきっかけとなったインド最大のスズキ工場で、イコール世界最大のスズキ工場であるSMGに伺い、工場見学を行った。

まずは座学で工場が計画されてから拡大していく中で、ハイブリッド用電池工場の併設なども含めて現在に至る経緯について説明を受けた。

安全操業のために必要なこととして広く日本の工場で行われている「ポケテハナシ」について動画を作り、インド人に日本式の就業上の注意点などをわかりやすく伝えているとのこと。このことは、インド操業当時に鈴木修社長(当時)が日本式モノづくりを伝えるため、始業から就業までの一連の流れの映画を作って見せたという逸話を思い出させた。こういうDNAが今も続いていることがわかり、いわゆる「オサムイズム」がインドに根付いていることが伺えた。

ほぼ原野だった地域に作った工場なので働き手の確保も大変。貧しい農村出身者がほとんどで、自動車を持つことができず自転車通勤の人が多いとのことだが、JIMといわれる日本式ものづくり学校で学び、日本への理解が進んだ就業者を一定数確保しているらしい。

日本からの駐在員の生活面では、病院、社員寮などの整備をSMGとして進めており、今回昼食に利用した社員寮では日本食レストランが厨房に入っていた。昼食ではショウガ焼きなどの日本食が供され、総じて満足できる味だった。こういう食事ができることは駐在員にとってはありがたい。最大100人程度の駐在者いるそうだが、安心した生活ができている様子。

カーボンニュートラルなどへの取り組みは、水の循環利用について聞いた。SMGの立地は高原であり水が貴重なため、塗装工程で使う大量の水も含め汚水は100%再利用。構外への排水はしていないそうで循環型社会を実践していることは広く知ってもらいたいところ。

私自身スズキ国内最大の湖西工場には何度も行ったことがあるが、スズキ世界最大工場の規模感には驚いた。また最新鋭の工場内は非常に清潔で整頓されていたと感じた。

私もかつて工場で勤務し車体課の溶接工程も経験したが、ここの溶接工程はほぼロボット化され、火花がほとんど飛ばず(スパッタといい車体表面に付くと後工程で修正が必要になる)、溶接技術と安全性の向上、工程管理の質の高さを窺い知ることができた。

鉄道利用の大規模な出荷ヤードを見たが、工場に至る古い町の交通渋滞や枝が伸び放題な沿線の街路樹(街路樹を切ってはいけない法律があり、過去は枝が積載車にあたって新車が傷だらけになった逸話あり)などを考えると鉄道の方が理にかなっている。鉄道での大量輸送はカーボンニュートラルへの寄与もあり一石二鳥の施策と感じた。

## ② 12/23 マンダル工業団地

### 調査目的

○日本のサプライヤーがグジャラート州へ進出を考えたときに一番の障壁は進出する場所。進出の足掛かりとなる貸工場を提供するのが日本資本の工業団地。その状況を把握するため、SMGにも近いマンダル工業団地に伺った。

### 概要

○ジェトロ・経産省がグジャラート州産業開発公社(GIDC)と共にマンダル・ベチャラジ地域に約2キロ平米の土地を確保し「マンダル日本企業専用工業団地」を開発。日本企業専用窓口「ジャパングデスク」があり、日系企業からの工業団地入居に関する各種の問い合わせや、操業開始にあたり工業団地内の基礎インフラ利用申請手続き等をサポートしている

○浜松に関係する企業としてROKI・テイエステック・ASTI、また県内企業で村上開明堂などの自動車部品メーカーが工場を構えている。

○豊田通商が設置した日本式ものづくり学校(JIM)を併設し、インド人の日系企業への就職を見据えた実践的な教育をしている

### 調査内容・所感

規模は市内の小沢渡や大久保の工業団地くらいのサイズ感で都田工業団地などと比べても小さいように思ったが、野良牛や野良犬の侵入を防ぐため、塀で囲む必要を考えれば適当なサイズなのかもしれない。現在空いている区画はないとのことで、機械を入れる事前工事の区画を見せて貰ったところ、新しく明るいイメージであった。

SMGに近いことがこの工業団地一番の利点。一般に中小企業のインド進出では土地探しや工場建設等のハードルが非常に高いが、この貸工場スペースを足がかりとすることができる点は、中小企業にとって非常に意味がある。

またこの団地の食堂はセントラルキッチンで、この団地の皆が利用するとのことで入居企業の社員交流などにも一役買っているとのことで良い方法だと感じた。

工業団地の中には職業訓練校として日本式のものづくりを学ぶ「JIM(Japan-India Institute for Manufacturing)」があった。この学校は豊田通商が運営している。



学校も貸工場の一区画といった感じで、中に入るとボール盤やレーザー加工などの金属加工機器が中央エリアに置いてあり、日本の工場ではおなじみな緑色のアーチ「安全の門」を通して中に入る構造。教室はそれを囲む形で配置されており、当日はぱっと見て 30 人ほどの学生が学んでいる様子を見ることができた。

スズキでも 2017 年のグジャラート州メーサナ地区を皮切りに日本式ものづくり学校を設立しているが、現在も様々な企業が出資したJIMが増えているという事は、その企業の従業員の確保だけでなく、インドに様々な工業のノウハウが伝達できることからインド社会への貢献は大きなものがある。今後浜松の中小企業がインド進出する場合にはJIMの役割なども知っておくと良いだろう。

### ③ 12/23 ネクスト・バーラト・ベンチャーズ社設立イベント@GIFT CITY

#### 調査目的

- 投資を軸とした経済特区の新街区として開発が進むギフトシティを確認することと同時に、
- インドの社会課題解決に向けたベンチャー起業家(インパクトベンチャー)を支援するためにスズキが立ち上げたネクスト・バーラト・ベンチャーズ社のビジョンなどを確認するべく、設立イベントに参加した。



#### 概要

- ギフトシティは国家プロジェクトのスマートシティ事業で、グジャラート州ガンディナガールに隣接する地域に設置されたインド初の国際金融経済特区。オフショア銀行、資本取引市場、オフショア資産管理、オフショア保険、IT サービス、IT 技術が創出するサービスや、関連ビジネスサービス(法務、会計、人材雇用、コンサルティングなど)をターゲットに国際的ビジネス主体の集積と機能統合によるユニークな街づくりを目指す。税制優遇が受けられるために、既にバンク・オブ・アメリカ、スタンダード＆チャータード銀行、香港上海銀行、シティバンク、バークレイ銀行、ドイツ銀行、JPモルガン・チェース銀行や、邦銀は三菱UFJ銀行が進出済み。今後ベンチャーの進出が見込まれている。
- ネクスト・バーラト・ベンチャーズはインド社会課題をビジネスの力で解決することを目的に、ファンドを通じて農業や、金融、サプライチェーン、モビリティ分野で活動する社会起業家(インパクトベンチャー)の支援や投資を行う企業。少数のユニコーンを生み出すのではなく、数百の収益性の高い中小企業を生み出すことを目指している。

#### 調査内容・所感

経済特区であるギフトシティはまだ開発途中だが、高層ビジネスビル・高級ホテルが立ち並び清潔なまちづくりができており、インドの街なかの喧噪とは一線を画した街区になっていた。バスで町中を通り抜け、ギフトシティ内のホテルでイベントに参加したくらいの体験だったが、



これからのインド金融市場や IT 関係企業の成長が感じられる場所で、ここにオフィスを構えることが今後起業家たちのステイタスになっていくのだと思う。

今回はここで、スズキの子会社ネクスト・バーラト・ベンチャーズ社の設立記念式典に参加した。名前の「バーラト」はインドの正式国名であり、社名を直訳すると「次のインドのベンチャーたち」ということになる。なお、スズキがこのような子会社を立ち上げた理由は以下の通り。

- ① インド人口は14億人いるが、その中で「都市に住み、企業で働く・会社を経営する」などの一定水準以上の日常生活を送っているのは4億人しかいない。
- ② 残り10億人は都市居住でも道路脇の露天商や、地方の農民で構成されているが、彼らはクルマを持てるような一定水準以上の生活に達していないのが実情
- ③ 一例として、ある地域の養羊家は現在刈り取った羊毛の8割が出荷できる品質に満たないために廃棄しており、歩留まりの悪い商売となっている。この破棄羊毛を自動車の内装材などの別の目的利用として販売できれば、彼らの生活水準を上げることができる
- ④ その支援に向け多くの「インパクトベンチャー」が立ち上がっているが、資金やマネジメント能力、また個々のネットワークが不足しているなかでは効果が上がらない
- ⑤ これら10億人がクルマを持てる生活水準向上が、今後のインド経済の拡大につながると考え、スズキがインパクトベンチャーに対して総合的な支援を行う子会社を設立

一企業がここまでの支援を考えていることに驚いたが、インドにおけるスズキの立ち位置は日本のそれとは大きく違っているという事と理解した。

社会課題の解決に民間の知恵を使うことは浜松においても重要なことであるが、浜松での知見のインドでの活用や、今後のネクスト・バーラト・ベンチャーズの取り組みが逆に浜松でも使えることになるかもしれない。今後に期待したい。

#### ④ 12/24 アーメダバード市長表敬

##### 調査目的

○アーメダバードと本市間で、産業だけでなく市民レベルでの友好関係を結び、文化交流や、スポーツ、教育などあらゆる分野の交流の可能性を探るべく訪問した。

##### 概要

○アーメダバード市の2011年における都市地域人口は635万人であり、世界では47位、同国内では7位になっており、面積は505平方キロメートルで農業、綿織物業が盛ん。マハトマガンジー生誕の地。

○近代的都市で郊外に工場が多く経済的に恵まれているのと同時に、歴史的な街並みや寺院などにより2017年に世界遺産リストに登録された。

○イスラム教徒が比較的多く(住民の2割程度)モスクも多く建てられており、ジャイナ教などの寺院も多い。



## 調査内容・所感

この後訪問する予定のグジャラート州印日友好協会のムケシュ・パテル氏の特別の計らいで、市役所到着前に市役所近くのリバーフロントパークに架かる「アタルブリッジ」を訪れた。橋はサバルマティ川を渡る遊歩道橋で、名の由来はモディ首相が尊敬するアタル・ビハリ・バジパイ元首相からとのこと。造形は白い三角トラサで構成され、その空間に三角の布を配置した、とても美しい橋で、布はアーメダバードのカイトフェスティバルで揚げられるカイトをかたどったものとのこと。アーメダバード市のランドマークにもなっており、訪問時に友好の印として橋のミニチュアが浜松市に贈られている。

その後市役所にてアーメダバード市長への表敬訪問を実施。会談で人材交流や産業交流に加え、凧(カイト)の交流などの文化的な交流も実施していくことで合意した。尚、その際浜松市が手渡した親書にある具体的項目は以下の通り。

### 具体的交流内容

- ① 貴市にて開催されるカイトフェスティバルに参加
- ② 浜松まつりに貴市を招待し、本市と貴市との交流の凧を上げる
- ③ インドフェスティバル in Hamamatsu に貴市紹介ブースの設置と招待
- ④ 企業間の人材獲得・人材交流の総合支援
- ⑤ スマートシティやカーボンニュートラルに積極的に取り組むスタートアップをはじめとした企業間同士の交流

### 将来的な交流内容(関係者との調整が必要な事項)

- ① 文化・スポーツ分野での交流
- ② 中高生同士の交流(ホームステイの実施など)

昨年7月の事前訪問時が功を奏し、上記については概ね合意ができたことは喜ばしいことだった。早急に正式な連携協定が結べるように期待したい。

なお、両市間では中高生のホームステイや交換留学生などの提案をしているが、大学生世代についてはアーメダバードではないが、ハイデラバードのIITHからすでに静大に学生が来ているとのことだった。

## ⑤ 12/24 グジャラート州首相表敬 協定締結式典

### 調査目的

○グジャラート州と静岡県の間で取り交わされる協定内容や、協定に対する期待感などの雰囲気調査をべく、協定の締結式典(パートナーシップデー)に参加した。

### 概要

○グジャラート州と静岡県は、人・経済・文化それぞれの面で交流促進が期待できる協定を締結した。式典には州と県、浜松市とアーメダバード市に加え、スズキの鈴木俊宏社長も参加している。



## 調査内容・所感

式典で登壇者は「モディスーツ」と「ストール」を身にまとい、終始和やかに執り行われた。今回はグジャラート州と静岡県との協定のほか、グジャラート州とスズキの協定も結ばれ、本市もアーメダバード市との予備文書の手交をしている。

本市も人材獲得や、日本企業のインド進出の支援を進めることこそ狙いと思うが、この協定により県が一步先んじた形になっている。とはいえ高度人材獲得について浜松市の持つ強みはスズキ本社や部品メーカーの集積地であるところ、また静大工学部の立地でもあり、浜松市が正式協定を結んだ際には、その後の具体的な施策を推進していくことが重要と考える。

式典に引き続き国際会議などではよく見る、その土地の名物料理などを供したランチミーティングが行われた。この方法は同席した方々が気軽にネットワークを築くための雰囲気作りに良い方法だと感じた。次回以降インドや他の都市からの訪問団受入れの際にもランチミーティングなどを取り入れるべきだと思う。

なお今回は州首相の参加するイベントという事で、会場内の警備は物々しく、機銃を携えた兵士が複数配置されていた。日本の平和さにつくづく感謝を感じたところ。

## ⑥ 12/24グジャラート州印日友好協会@アーメダバード経営者協会記念祝賀行事 調査目的

- 民間レベルでの友好関係を構築すべく、ムケシュ・パテル氏が会長を務めるグジャラート州印日友好協会が主催しアーメダバード経営者協会にて執り行われた記念祝賀行事に参加し、民間交流の可能性について調査を行った。

### 概要

- グジャラート州印日友好協会は学術や、ビジネス、文化面における日印間の協力と、理解促進を目的に1975年に設立。経済面ではアーメダバード経営者協会(AMA)と提携している。
- 本市との連携のキーマンであるムケシュ・パテル会長のプロフィールは以下の通り

＜ムケシュ・パテル氏プロフィール＞

- ・在グジャラート州印日友好協会会長
- ・グジャラート大学と追手門学院大学(大阪府)の交換留学プログラムで来日経験あり
- ・2017年 旭日小綬章を受章
- ・グジャラート商工会議所会頭、アーメダバード経営者協会総裁等を歴任



## 調査内容・所感

会の中では民間レベルの中でも経済面が主に語られたと感じた。というのもアーメダバード経営者協会(略称「AMA(Ahmedabad Management Association)」)は、浜松市では商工会議所であり、ビジネス面で両市の連携を深めるには当然。とはいえ、とても気さくな人柄のパテル氏が取り仕切り、学術や文化面などでも民間レベル交流の重要性が伝わる内容で、



終始和やかに開催されていた。

挨拶された浜松商工会議所の斉藤会頭やスズキ堂道社外取締役などの挨拶でも民間レベルでの交流推進に期待が寄せられていることが伝わった。民間のスズキが先鞭を付け、日本式のものづくりが浸透した土地柄でもあるので、市民レベルでの交流も今後の推進が期待できると感じる。

会の終盤には、1月中旬に開催されるアーメダバードカイトフェスティバルに向けて、浜松の市章のついた凧2枚が贈呈された。この凧を揚げるため北嶋産業部長が再度訪印するそうだが、フェスティバルだけでなく更に細やかな交渉事務も行うとのこと。その成果も期待したい。

なお浜松まつりにもインドから訪日団が来て交流する計画もあるようだが、相互往来が二市間の連携強化の今後に役立つ事例として貰いたい。

## ⑦ 12/25 全日本空輸(ANA)インド総代表兼デリー支店長 意見交換

### 調査目的

○日本とインドの交流人口の現状と今後の拡大可能性、また交流を深める秘訣などについて、インド人材に詳しいANAインド総代表兼デリー支店長の片桐氏に何うべく訪問した。

### 概要

○片桐氏は人材不足の日本と、就職難のインドの交流を促進させる活動をしている。片桐氏はパリでも働いたがインドの居心地はすこぶる悪いが、仕事は楽しいとのこと。

○具体的は活動はインド各地でセミナーに登壇して日本の良さをアピールしたり、日本各地でインド人の可能性について講演したり、インドの送り出し機関と日本の監理団体や企業とのマッチングなども行っており、日本でのインド人の受け入れ実績を生みだしている。



### 調査内容・所感

市長より今回の訪印は、国際化の進んでいる浜松ではあるが、今後はインド人材を呼び込むためのものであることや、市内インド人居住数が倍々で伸び、現在800名を数えることなどが紹介されたのち、片桐氏からの説明を受けた。氏の説明は以下の通り

- ① インド人口は14億人いるが、その中で「都市に住み、企業で働く・会社を経営する」などの一定水準以上の日常生活を送っているのは4億人しかない。
- ② ベトナム人研修生の劣悪さからインドの情勢に興味を持った時、インド人は日本に223人しかいなかった。
- ③ インドは人口オーナス期とはいえ400万都市が8都市しかなく、都市人口は1億未満。残りの20代若者らは地方の農村におり、インド政府はこの人たちを活用したいと考えている。人的交流については岸田外相(当時)とモディ首相会談で初めて語られ、菅首相とモディ会談でも人的交流の拡大に一致した過去がある。

- ④ インド人材は語学力が高く、温厚な性格でアニメ好き。日本へのイメージもよい。その中で送り出し機関はインド人への知識が不足。現状ブローカーの存在もない。
- ⑤ 送り出し機関についてはコロナ前に33社あったが今は24社しかない。コロナ中リサーチした時には23社とアポできたが、総じて日本の管理団体とのコネクションがない状況。
- リサーチした内容の例
- ・NAVIS 社:ベンガロールの機関で介護施設に23人の送り出し実績。日本語教育が充実
  - ・LOHIA 社:土木事業に送り出し
  - ・アームス社:BHUSHAN ITI(専門学校)と提携し技術系ヤマ発の教室あり。現在休止
- ⑥ 技能実習・特定技能のセミナーを実施している。東に位置するマニプール州インパールでも実施しているが、経済的に未開の地であり、就職先がない。モンゴロイド人種であることから日本にはなじみやすいと感じている。ヒマラヤに近いダージリンで実施した際には、政府機関(NSDC)が送り出し機関を設立し、送り出しを始めたが、日本に知られていない。福井・熊本・高知でインド人材を受け入れ実績はあるが、送り出し先企業は、日本を楽しめる環境作りに腐心しているそう。日本旅館協会で企業向けにプレゼンで人材のレベル高さを理解してもらい23年からマッチングが開始できた。今までミャンマーからを予定していたが政権交代で問題が起きたため、今後はインドに切り替えて行きたいという意向を持ってもらった。
- ⑦ 自動車整備士の例ではトヨタディーラーのトヨタキルロスカが送り出し機関も担い、1600名の実績があることになっているが、単なる期間研修も含まれているように思う。
- ⑧ 日本の送り出し機関がインド事業をするべきとの意見もあるがインドへの理解がまだ進んでいない。またそういう例が増えてくると悪質ブローカーも出てくる。そうなると色々面倒が出てくるのでNSDCの監視が必要になってくると思われる。
- ⑨ そのNSDCにJAICAから1名出向することになった。今後受入れ体制も含め支援に期待できると思う。→北嶋部長:1月にNSDCに行く予定があるので確認する。

意見交換の場では、商工会議所の斉藤会頭から、浜松では高校生採用ができなくなっている現状について、遠鉄ストアや介護施設でのベトナム人材活用の実体験を基にした話題や、スズキで働くインド人などについて様々な意見交換が行われた。

過去日本で働く外国人材はいずれ母国に帰る「出稼ぎ」のイメージだったが、定住をイメージするインド人材を活用する場合には、今までよりもっと細やかな生活支援をし、隣人との軋轢などを生まないようにする必要があると感じた。行政に期待することとして「緩衝材的なことをお願いできれば」という片桐氏の話に納得すると同時に、今後市としてインド人が居住する自治会への支援も必要になってくるように思う。国際課だけでなく市民部も交えて考えるべき話と受け取った。

## ⑧ 12/26 インド工科大学ハイデラバード校(IITH)

### 調査目的

- 既に連携協定を締結している静岡大学との連携の強化や、市内他大学と学術交流の可能性、IITHで学ぶ高度人材を獲得する方法など含めた覚書の締結を行うにあたり、大学の現状調査を含め締結式に参加した。

### 概要

- Iテランガーナ州サンガレッディ地区近郊カンディ村にある公立工科大学。2008年に設立され、インドで最も急速に成長している高等教育機関の1つ。
- 学生は約2700人で、学部はAI、医用生体工学、バイオテクノロジー、化学工学、気候変動、土木工学、コンピュータサイエンス&エンジニアリング、電子工学、工学科学、材料科学・冶金工学、機械・航空工学、化学、物理、数学、リベラルアーツ、デザイン、起業・経営。
- 国際協力機構(JICA)から技術・財政支援を受け設立された経緯もあり、日系企業との交流も多く見られる。
- 本市とは2022年12月のIITHへの職員の訪問から交流が始まり、その翌月に同校校長が来日。市長と面談をするなどの交流を深め、連携の可能性を模索してきた。
- 静岡大学は2017年に同校と連携協定を締結している。



### 調査内容・所感

冒頭IITHの片岡教授より大学の概要について以下説明を受けた。

- ① IITHは2017年以降に設立されたIITの中では序列が1番であり、イノベーション分野に限ると伝統校を含めた全体でも3番目。学生をリクルートするためにも順位は重要。  
なお大学世界ランキングでは600位くらいの位置。学科同士のランキングもありその中には投資金額もある。ちなみに研究予算は学科の成果に基づき配分される。
- ② 有望な学科はAI学科で、世界で3番目に設置。権威が多く、2名は日本人。
- ③ 学長は過去筑波大で研究職に就いており、日本通の人。
- ④ 学科は現在18あり、学生は5000人を超えた。設立時は200名、教員も100人程度だったが、現在も拡大中。
- ⑤ 学生は教授を目指したり企業で働いたりすることよりも、起業家になることを求めている。  
よい研究科には大学が出資して実業家を目指すことができる。そのため学生であっても、既に実績があれば起業させ、卒業を待たずディプロマ(終了証)を交付して退学させることもある。また失敗しても普通に卒業生として就職させるセーフティネットがある。ちなみに企業は挑戦した失敗者を採用したがる傾向がある。
- ⑥ 日本のODAで建てた建物が多いので、日本企業に貢献させることはあるべき姿。学生も日本が好き。スズキには計36名ほどが新卒入社予定。JETROの就職イベントは300人超が集まる。またすでに就職した先輩から日本に関する情報が入ってくるようだ。

- ⑦ また生成 AI での翻訳が進めば、就職にあたっての日本語スキルは不要と考える。だから積極的な日本語学習プランはないが、言葉の楽しさを伝える学習は必要。そのための短期集中授業をする先生が1人いる。
- ⑧ 学生にとってGAFA代表されるにアメリカでの仕事は憧れだが、日本は実際に行ける国ととらえている獲得の目はある。

その後場所を移しIITHと本四間のMOUの調印式が執り行われた。その際の学長・市長の挨拶内容は以下の通り。

#### 学長挨拶

- ① 市長が調印式に来るのは初めての事で光栄。この様な連携は他のIITにはないことであり、片岡教授の存在も重要な要因だと思う。
- ② 1951年の第1世代IITの設立以来、インフラまでODAがあったのはIITHが初でJAICAのフレンドシップの成果。
- ③ 今回スズキイノベーションセンターの設立を契機に浜松市と連携できたことにより、さらに全国規模で多くの企業と連携できる。これはモディ首相の戦略にも合致している。長期的な関係づくりを期待したい

#### 市長挨拶

- ① 昨年に続いて浜松にご訪問いただき、今回の話が進んだ。両者にとって大きな意味がある。片岡教授のご尽力にも感謝申し上げる
- ② 浜松には「やらまいか精神」の下、工学・技術に関し卓越した、たくさんのスタートアップがある。今後のマッチングや交流に期待する

調印式後には記者会見が行われたが、その中で今後の具体的な施策として市長より「静大にIITHの学生を招聘して連携をすでに始めた」「片岡先生に高校生向けの講義を依頼」「スズキイノベセンター通じ、若者同士の交流を行う」などの紹介があった。また別の質問でMOUへの期待が問われ、学長から「スズキとの強いリレーションシップで40人位就職した。これは非常に稀なことであるが、他の企業でも働けるような新技術開発で両国に利益が出るようにしたい。それに向けた共同研究にも期待する」との回答があり、アメリカでなく日本を重視する戦略のメリットへの質問には「インドと日本の文化・伝統に通じるものがあり、ヒューマニティもよい」「35年の経歴で感じたことはアメリカでは文化的な学びがない。また(学長が)日本にいた2年間で日本を愛してしまった」「日本には規律正しさ、謙遜など、お金よりも大事なものがあり、それが強みと思う」と非常に嬉しい回答を頂いた。本市もその期待に応えられるようお金だけではなく魅力を高める方策を考えて行きたい。

続いて本市・IITHと視察1日目の記念式典のネクスト・バーラト・ベンチャーズ社間のMOUも締結された。その際の挨拶要旨は以下の通り。



#### 学長挨拶

- ① 企業との提携はスズキが初。B2Xの研究を発端に、続いてスズキイノベーションセンターをキャンパス内に設置し、リクルート活動を開始したこと。3番目がネクスト・バーラト。今後農村の成長は重要で、その若者へのスキル伝授を計画している
- ② 浜松市・大学とネクスト・バーラトとの2つのMOUを通じ、日印双方での協力が重要となる

#### 市長挨拶

- ① 浜松の経験をこれからのインドに提供するとともに革新的なインドの解決方法を学ぶため、来年1名職員を派遣する。しっかり連携したい。受入れを迅速に対応頂いたジンダル社長に感謝申し上げる

#### ネクスト・バーラト社ジンダル社長

- ① バーラトとは本来のインドの国名。社名をつけるにあたり、14億人の深さを表すイメージでインドではなくバーラトとしている。ネクスト・バーラトはスズキ子会社の中でのスズキを名乗らない唯一の会社である。
- ② 2016年にIITHの学生として「さくらサイエンス・インド大学生招へいプログラム」で2か月調査に参加し日本を訪れた経験は非常に素晴らしかった。片岡教授になぜこのプログラムはお金をくれるのか聞いたが、あとで日本に100倍にして返せの意味だと言われた。その意味で、最初の返済がこのネクスト・バーラトだ。
- ③ 浜松の「やamaiか」をインドで伝える時には、「JUST do IT!」だと伝えている。これはインド人の気質とも通じるものだ。

調印後の記者会見で本MOUがもたらす日本企業へのメリットが問われ、ジンダル社長から、どの様にスタートアップと連携できるかがカギ。まずインドスタートアップフェアを浜松で行いたいと考える。また浜松の農家にインド農家を見てもらい助言を受けたいという趣旨の回答があった。また大学だけでなくハイデラバード市との交流について市長から、都市間連携も今後検討していく旨の話があった。実践的な取り組みが重要であり、今後推移を注目して行きたい。

その後構内の施設を見学。広い敷地の学生寮や自動運転を行うテストコースなど、研究者に寄り添った施設は、大変すばらしい大学であった。

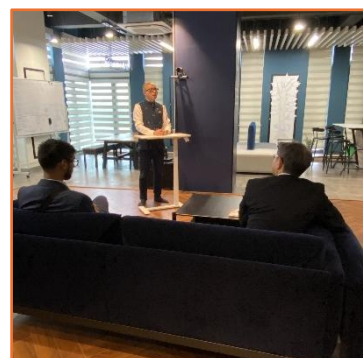
## ⑧ 12/26 スズキイノベーションセンター

#### 調査目的

○今回のMOU締結の発端となったIITHに居を構えるスズキイノベーションセンターにインド人との交流を深める方法やインドの社会課題解決に挑戦している手法を学び、本市の課題解決に横展開できる手法であるか可能性を確認する。

#### 概要

○同センターは2021年にスズキがIITHと共同で同校に開設



した交流拠点であり、スズキのエンジニアと同校の教員・学生との人材交流や、情報交換の場であり、自動車や農業などの分野で共同での研究開発、人材育成などにつながっている。

○スズキは同センターを活用し、主力市場とするインドで電動化や自動運転への対応で必要となる技術開発力の強化を目指すほか、将来的には現地の優秀な人材の確保につながっている。

○今後同センターはネクスト・バーラト・ベンチャーズの傘下に入るが、引き続き人材交流拠点として、将来の共同研究や教育プログラム開発などの可能性を探るとしている。

#### 調査内容・所感

ここではスズキ齊藤参与から説明を伺った。

センターはIITH構内にあり広さ的にはZAZA地下のFUSEより小さいくらいで、オフィスは非常に清潔。中央にはひな壇になった小さなミーティングホールがありそこで説明を聞いた。

ネクスト・バーラト・ベンチャーズはここに本拠を置き、支援を受けるインパクトベンチャーの皆さんはここで研修を受けている。そのインパクトベンチャーが支援する地方の貧しい暮らしについて、地方だからこそその課題として以下の話があった。

- ① 地方で農作物が順調に収穫されても、道路事情や配送手段また配送品質が悪い
- ② そのため市場につく頃には6割が傷んでしまい、4割ほどしか売ることができないことが当たり前になっており、歩留まりが悪い
- ③ 輸送手段や冷蔵技術などで支援があれば、もっと歩留まりが良くなる
- ④ そうなれば生活レベルが向上することが期待できる

一企業がそこまでする必要があるのかという気もするが、都市圏に住む富裕層と地方の差は日本からは計り知れないものがあるようだ。

都市といっても依然としてスラム街に住む人たちも多く、実際マーケット周辺には物乞いの子供などもある。14億の人口があっても、底辺を底上げしないとスズキの安い車でも買ってもらえない層は減らないという意識があるという。この現実を知った浜松のスタートアップや企業がソリューションを提供できるようにすることは非常に重要と感じた。

#### ⑨ 12/26 アップパールスタジアム

##### 調査目的

○計画が検討されている多目的ドーム型スタジアムに将来的にインドの大人気スポーツであるクリケットでの利用も可能とした場合どのような施設が必要かについて、ハイデラバード市のアップパールスタジアムを視察した

##### 調査内容・所感

視察当日は大雨のため2階席からの視察のみ。本来試合も組まれていたがグラウンド状態の不良により中止となっており、中央のバッティングエリア(?)はブルーシートがかけられた状態。雨天でもグラウンド整備が行われていたが、維持管理という点でも屋根なしの天然芝は、ランニングコストも高くつくように感じた。



クリケットは本来1試合に5日かかるためグラウンド占有時間が長い。そのため観客は出たり入ったりだということ。また1日で終わる短縮版の競技もあるが、馴染みのない競技で長時間占有となれば、クリケット機能の整備について浜松市民の理解を得ることは難しい気がする。

競技スペース自体は直径 116 メートルの正円に近い楕円のフィールドであり他のスポーツと併用スタジアムとすると他の競技では不要なエリアをどのように活用するかが課題。普段は座席に利用して、クリケットの試合時は外すような仕掛けが必要になるが、予算額に影響するので考えどころである。

しかし、インド人のクリケットに対する熱量はものすごく、バスの運転手の待ち時間などでも携帯で試合を見ており、またホテルのTVのスポーツチャンネルで複数のチャンネルで録画した試合の放映を行っていた。2026年には名古屋でアジア大会が開催されるため、クリケット場整備をする必要があるが、愛知県がどのような準備をするのか、今後情報取得をしておきたい。

ちなみに日本クリケット協会のサイトによると、静岡県は富士川河川敷に2面あるとのことだが、いわゆる河川敷の野球場よろしく観客席やフェンスなどもない状況で国際大会を呼べるものではなかった。今回得た知見を今後のスタジアム計画の中で生かして行きたい。

## まとめ

今回の視察は非常に訪問箇所の多い、盛りだくさんな視察であったが、前半の静岡県との合同行動は、あくまで県が主体であり、市として自由に調査できる環境になかったことは少し残念で、現地のアレンジで計画になかった場所に行くこともあるなど海外視察の難しさを感じた視察だった。また、市同士・議会同士の連携を作る目的の視察は、県と同様に本来あくまで公務としていくべきものとも感じた。今後議会で検討するべき点である。

とはいえ今までの海外都市との連携はスポーツ・文化面であったり、経済面であったりと縦割りの連携が多かったが、今回のように産業視点としても人材が浜松に来れば市民生活面や子供の教育面などで庁内連携が必要となってくる。このインド連携がその後に続く海外戦略の手本となるものになるよう、今後もしっかりと注視し、また応援していく。

以上